

さわやかに たからかに とこしえに

秋田県立横手清陵学院中学校・高等学校 校長室だより第7号
2020年12月14日(月)発行 文責 信田 正之

こんなときだからこそ

師走に入り、一段と寒さが増してきました。今日から雪の日が続く予報が出ていますので、いよいよ本格的な冬の到来となりそうです。今年は新型コロナウイルスも心配されます。健康管理に十分気をつけて、体調を崩さないようにしたいものです。

さて、今年一年を振り返ると、「コロナに始まりコロナに終わる年」と言ってもいいでしょう。オリンピックが延期になったことは大きなニュースでしたが、学校でも予定していた行事や大会が中止や延期、規模縮小を余儀なくされ、煮えきれない思いがあとに残りました。特に、高校3年生にとっては進路決定に係わる重要な年ですので、心配もひとしおです。中でも、受験のため県外に出向かざるを得なかった皆さんは大変な思いをしたことでしょうか。試験が中止になりはしないか、コロナに感染しないか、帰宅後はどうするのか・・・。「こんな忙しいときに」と苛立つ気持ちもあつたに違いありません。

しかしそのような状況下にあっても、私のもとには合格内定の嬉しい知らせが続々と届いています。難関とされる企業や国公立大学の関門を突破した人も何人もいます。報告のために校長室に訪れた合格者は皆、誇らしげな笑顔と、ときには涙を浮かべ、自分の将来の夢を明確に語ってくれます。その表情には、目標に到達できた達成感があふれています。むしろ、「こんなときだからこそ」喜びは大きいはずです。

高校3年生に限らず、2学期は清陵祭や新人大会、修学旅行などの行事が目白押しでした。ただ残念なことに、本来であればもっと充実したものになるはずの活動がことごとくコロナの制約を受け、場合によっては高校2年生の修学旅行のように中止となった行事もあります。皆さんの気持ちを慮れば、ただただ無念としか言いようがありません。しかし、そのような中であっても、今できることに一生懸命取り組む生徒の姿があちこちで見られます。むしろ、制約のないときよりも輝いているとさえ感じる場面もあるのです。意見をぶつけ合い、知恵を出し合っつった斬新な清陵祭。強豪に善戦し、ときに勝利して喜びを爆発させた新人大会。行く先々で生徒の立派な振る舞いに高い評価をいただいた中学3年の修学旅行。様々な制約がある中で、それを乗り越えようと努力したことが、結果的に皆さんを成長させることにつながったのだと改めて感じています。そのような皆さんを、私は生涯誇りに思います。

人は何かをやろうとしたとき、妨げとなる障害が現れると、つい「こんなときに」と嘆きたくなるものです。しかし、どんなに嘆いても、障害が消えることもなければ、自分が前に進むことができるわけでもありません。そんなとき私は、「こんなときだからこそ」できること、「こんなときだからこそ」生じる価値を前向きに考えるようにしています。立ち止まっても、時間は確実に前に進むのですから。まあ、こんな話をしなくても、皆さんはもう既に実行しているわけですが・・・。

2020年も残りわずか。コロナ禍は来年もしばらく続きそうですが、皆さんが「こんなときだからこそ」さらに飛躍できる一年になることを、私は確信しています。